

認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会  
 【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階  
 Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261  
 Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/  
 【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室  
 Tel. +86-871-63311468 Fax. +86-871-63320658  
 f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa  
 ブログ 雲南の郵便屋さん 検索  
 編集・発行人 初鹿野 恵蘭  
 印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan  
Friendship Association

# 彩雲の南

第70号

発行日 2019年(令和元年)10月15日

会報

## 25の小さな夢基金 第11期生91名

## 紅河県支援小学校を訪問 感動の卒業式と再会「ふれあいの旅」

6月30日—雲南滞在初日は「雲南省博物館」の見学から始まりました。その巨大な建物と膨大な数の展示物に圧倒され、雲南の古代から現代までの歴史と少数民族についての知識を深めました。その後市内に戻り、名所の「翠湖公園」を散策。大輪のハスの花が咲き乱れ、清々しい陽光の下に現地の方々もたくさん訪れ、広場では民族衣裳を身にまとった人々が思い思いに踊り、とても和やかで雲南らしい一面を見ることができました。夜には少数民族のパフォーマンスで有名な「雲南人家」で雲南料理を堪能。雲南滞在初日を満喫しました。

### 「25の小さな夢基金」卒業式

7月1日—「25の小さな夢基金」卒業式に参列。今年は第11期生91名が卒業を迎えました。式典は、各クラスが制作した3年間の高校生活をぎゅっと詰め込んだビデオ映像で始まり、みんなで過ごした思い出の場面に、ともに笑い、懐かしみ、目を潤ませる生徒もいました。親元を離れ、さまざまな不安を抱えながら入学した春蕾生は、この3年間でかけがえのない仲間とともに成長し、一人ひとりが抱いた夢を実現させるために、次のステップへと踏み出しました。

式典終了後、卒業生と膝を交えて懇談。卒業生はみなさんに「爷爷(おじいちゃん)」や「哥哥(お兄さん)」と呼びかけ、3年間の支援に繰り返し感謝のこぼを述べ、楽しかったことや思い出深い話、大学進学について熱心に語りかけ、終始和やかな雰囲気の交流会でした。またサポーターの皆さまから



奥、協会支援校舎

### 「50の小学校プロジェクト」支援8校目 「日中友好紅河県他撒ハニ族 僑心小学校」再訪問

卒業式の午後、第2の目的地である紅河県へ向けて移動。昆明からひたすら南下すること6時間。急勾配の九十九折れの山道を登ると、宿泊地の迤薩鎮は山の稜線に開けた“天空の街”でした。

7月2日—2006年に協会が支援した「日中友好紅河県他撒ハニ族僑心小学校」(現在全校生徒486名、教員20数名)を訪問。一行が到着した時、元気一杯に校庭を駆け

回ったり、馬とびやゴムとびをしたりしていた子どもたちは明るい笑顔で出迎えてくれました。同校は2006年以降に別校舎を増築し、協会が建設した校舎はパソコン教室や音楽室、図書室として使われていました。校舎完成時に飾られた石碑には協会の名前



春蕾卒業生との再会

7月3日—昆明への帰路、春雷生第1期生の陳紹仙さんを訪ねて墨江へ。陳さんは2014年に雲南大学を卒業後、墨江第一中学校で英語教師として活躍しています。



▲13年間大切に守られている記念碑  
がしっかりと残されていました。

校内を一通り見学して、2年生と5年生の授業を見学。少しだけ時間をいただき、子どもたちに将来の夢を聞きました。「算数の先生が大好きだから、先生になりたい!」「お父さんが作る野菜が大好きだから、僕も美味しい野菜をつくる農家になりたい!」と、どの子も少しばかりながら、でも、堂々と素敵な夢を語ってくれました。子どもたちの姿を通して、少しずつ適切な環境で教育を受けることができるようになっていくことを実感しました。その後、学校の先生た



先日、第一子を出産し病院で休養中。病室ではご主人と実のお母様が笑顔で一行を迎える。春蕾卒業後も気遣う協会に重ね重ね感謝のこぼを述べていました。理事長から出産のお祝いを手渡し、久方ぶりの再会に陳さんも理事長も手を取って喜び合っていました。短い面会でしたが、一同、赤ちゃんの健やかな成長を心から願い病院を後にしました。後日、赤ちゃんの写真と母子ともに元気に退院という知らせが届きました。

実質5日間の短い「ふれあいの旅」でしたが、随所で感動と驚きと希望を感じた旅でした。昆明市女子中学、省政府、市政府、その他関係各機関の皆さんに感謝申し上げます。

清川絵夢



△授業を受けている子供たち



△学校教育について真剣に話し合いました

ちと今後、協会と学校の関係をどのように発展させていくか、具体的に話し合いました。また、先生たちの「生徒たちによりよい教育を」という高い志も見ることができ、とても充実した有意義な再訪問でした。



お預かりした贈り物やお手紙を理事長から春蕾生に手渡すと、とても喜んでいました。卒業生の大部分は大学や専門学校へ進学します。その後は公務員や先生になることを希望する生徒もいます。この夢は少数民族の女の子たちにとって、少し前までは“手の届かない夢”でした。でも今、昆明市女子中学で教

育を受けたことで、夢に近づけた女の子がどれほどになるかと考えると、本当に素敵だと感じました。そんなたくさんの夢が詰った卒業式はキラキラと輝いていました。

参加者(順不同、敬称略) 下道國、立野有文、久継智弘、平田栄一、沈東毅、渕岡彰、何堅伯、鄒坤龍、廖海波、佐伯義博

ボランティア・ご協力(順不同、敬称略) 馬宏翔、季瑞穎、曹彦春、秦利菲、魏忠、王文寿、楊亞國、王磊、朱根生、紅河県他撒ハニ族僑心小学校の先生方、昆明市政府の方々

日本雲南聯誼協会より: 初鹿野恵蘭、林則幸理事、清川絵夢(東京本部)、何倩(雲南支部)

25の  
小さな  
夢基金卒業式参列「ふれあいの旅」参加者・感想①  
15年目の初参加

会員 下道國さん

これまでなかなか機会に恵まれず残念な思いをしていましたが、年齢的なこともあり、今回を逃すと難しくなると考えて協会の会員となって15年目にして初めて「ふれあいの旅」に参加しました。同行の皆さんとは初顔合わせでしたが、羽田空港で集合し、広州空港での乗り換え、昆明空港に到着する頃にはすっかり打ち解けていました。

7月1日、昆明市女子中で春蕾生の卒業式に参列しました。彼女たちは進行役から司会まで見事に式を取り仕切っていました。彼女たちの学校生活を記録した映像を見た後、来賓挨拶と校長先生の祝辞で終了しました。卒業生が主体となった簡潔な式はオープンな感じで、形式的な日本の式典とは一味違い、新鮮で好ましい印象でした。



旅の2日目に訪れた昆明市内の官渡古鎮

紅河県他撒哈尼(ハニ)族  
僑心小学校で授業参観

支援物品贈呈式に参加



7月2日、支援8校目の「紅河県他撒哈尼(ハニ)族僑心小学校」を訪問しました。3階建ての鉄筋コンクリート建ての校舎の入り口には、初鹿野惠蘭理事長の名前に入った銘版が設置されていて、協会に対する謝意を汲み取られました。2年生と5年生の授業参観では、理事長の質問に元気よく答える生徒が多い中、恥ずかしがる生徒もいて、日本人と変わらない一面も見受けられました。学校には新たな校舎も建設されており、僻地とも思われる地域もすいぶん整備された印象でした。

同校への支援物品を贈って全校生徒との記念写真を撮った後、先生方と歓談しました。保護者の方たちは先生方を大変尊敬しているとのことで、日本の現状との違いを感じました。給食をいただいた後、隣接の幼稚園も参観。皆「ニーハオ!」と元気よく挨拶をし、素朴で好感の持てる児童たちでした。その後、有名な棚田の「撒瑪塚梯田」を見学し、そのスケールと見事さにハニ族の何世代にもわたる生活、歴史や文化に思いを馳せました。

その後、春雷卒業生の出産直後の陳紹仙さんを病院に訪問して昆明に帰り、繁華街も散策しました。協会古参でかつて昆明にいた平田さんの案内で、学生街の飲食店で日本式のサバ、シシャモ、豆腐などを食べました。遠く離れているにも関わらず、日本で食べるのと変わらないので些か驚きました。

今回は、理事長はじめ幾度も訪中されている会員の皆さん、特に初めての中国と言ながらアテンド役をされた若き清川さんには大変お世話になり、有意義で健康な旅ができ、心から感謝する次第です。

25の  
小さな  
夢基金卒業式参列「ふれあいの旅」参加者・感想②  
中国雲南省昆明の旅で

会員 立野有文さん

仕事では何度も海外旅行に行ったことはあります、今回のような旅は初めての経験。第一ツアーパーに参加しグループで行動すること自体未経験で、始めから大変不安でした。それでも決行(?)を決意したのは、昔(そんな古い昔ではない)、ある中国紀行文を読んだからです。そこには中国西南の果てに山岳稻作民族たちが太古の昔から暮らしており「そのどれを取っても日本人のルーツと言えるのではないか」という一文がありました。また、私事ではありますが、最近養女にしたタイ人の娘の顔立ちや立ち居振る舞いを見るたび、我々と共に祖先を持っているのではないかという「ぼんやりとした夢いのぞみ‘を抱くことも相まって、勝手な空想が膨らんだのです。

簡単に言えば、協会の活動主旨と自分の空想的(?)決断とを無理やり結びつけて参加させていただいた次第。少数民族の子どもたちに教育の機会を提供するために、NPO法人として手を差し伸べる…それらが具体的にどのような過程で実行されているのかも興味があり

卒業式に参列  
後列左から2番目

小学校では歓迎のスカーフが送られました



世界遺産の紅河ハニ族棚田

25の  
小さな  
夢基金卒業式参列「ふれあいの旅」参加者・感想③  
輝く未来に向かって「25の小さな夢基金」サポート  
顧問 渕岡 彰

ツケが届かず卒業式は急遽、現地で買ったピンクのワイシャツで参列しました。今回は、早めに受け取ることができ、旅は順調にスタート。まずは一安心、正装して卒業式に参列できると胸をなでおろしました。

卒業式当日は予報に反して、薄曇りで日も差す良い天気。ダークスーツとネクタイに身を固め、昆明市女子中学へ。昆明の街にはブーゲンビリアが咲き誇り、南国雲南へ来たな、と実感させられました。

校門をくぐり校庭を見回すと、新しい学舎が増えていました。校舎8階の式場へ向かい、自分の席を確認。ここで皆さんとちょっと違う行動を。ここは女子高、男子トイレのありかを事前に確認。実は、昨年はお腹を痛めて下痢模様、式で我慢に我慢を重ね終了後トイレに駆け込もうとしたが、すぐに見つけられず往生したのです。今年は、いざというときに迷わず行けるよう場所を事前に確認。



お祝いを述べる渕岡彰顧問(左)



び舍から歩き出そうとしていました。進学する人も就職する人も彼らのカンバスは真っ白。人生の絵を、夢を好きなように描ける。輝く未来を築くのも、大きな夢を実現するものすべてこれから精進次第。「YOU CAN DO IT」卒業生全員の未来が輝いてほしいものと心から望んでいます。



春蕾生手作りの卒業式

# 25の小さな夢基金 心と心が通う 1対1の支援

## サポーターから 春蕾生へのエール

春蕾生へいつも手書きのお手紙でエールを送り続けているサポーターの吉田保之さん。お手紙からは春蕾生への温かく包み込むような優しさが伝わってきます。吉田さんは協会へも励ましのメールを送ってくださり、応援していただいています。



吉田さんご支援の春蕾生  
趙南子さん(2014年入学、イ族)

## 25の夢基金サポーター寄稿

# 雲南の希望に満ちた娘たちへ

春蕾生の皆さん。こんにちは。

私は日本の北部、北海道に住んでいて、10年間くらい支援を行なっています。

支援を始めたきっかけは、何で見たかは覚えていませんが、中国南部の貧しい地区の少数民族の子女が教育支援を求めていると知り、向学心に燃える子どもたちを助けたいと思ったことです。

最初は年会費だけ、途中から教育のための資金を支援するようになりました。送られてくるパンフレットを興味深く読み、正装した民族衣装の素晴らしさに感銘を受けました。日本は

ほぼ90%同じ民族で暮らしているけれども、雲南には多様な民族が暮らし、それぞれが尊重されていて素晴らしいと思いました。

僕も高校生の時は熱心に勉強をして、特別な進学校へ進みました。しかし、過労で病気になってしまい、その後脱落して意に沿わない人生になりました。

それで昆明市女子中学の皆さんに申し上げます。無理をして長時間勉強をせず、1時間したら10分の休憩をとること。1日1時間ほどの散歩をすること。栄養のあるものをきちんと食べ、偏食しないこと。夜11時になったら必ず寝ること、朝6、7時には起きること。—これらを守ることが健康増進につながると信じています。たまに羽目を外すのは構わないけれども、なるべく守って下さい。

雲南の山河は素晴らしいでしょうね。生ま

れ故郷は、他の地に勉学に出ても誇りにしてください。故郷での生活の素晴らしさは、離れて年月が経つて初めて分かるものです。今も苦しいことも多いと思います。日本の子どもたちは「生きている意味が見いだせない」と口々に不満を言います。でも大人になってからの苦労はそれとは問題にならないものですよ。「中学生のころは、楽だった」と後で必ず思いますよ。

勉学は苦しいようで、それだけに集中していれば結果がついてくる1番楽な生き方です。何よりも将来への「忍耐力」が付きます。これが将来仕事についたときに、業績を上げる際に重要な能力になります。しかし、前にも言ったように、注意しすぎるほどの注意を健康に向けながら努力することが大事です。「私のように病気で一生を棒に振らないように！」

会員・「25の小さな夢基金」サポーター  
吉田保之

**心と心をつなぐ  
教育支援 1日80円のご支援**  
**「25の小さな夢基金」  
2019サポーター  
募集中**



雲南の女子高生の学資を3年間、1対1で支援する「25の小さな夢基金」。今年9月にも新入生186名が入学しました。現在、サポーターの予約を受け付けています。ご支援をお願いできる方、お待ちしております。

※「25の小さな夢基金」へのご支援は、税制優遇（寄付控除）が受けられます。

詳細は：[協会公式HP](http://www.jyfa.org) [http://www.jyfa.org](#) → 「教育支援」 → 「25の小さな夢基金」

お問い合わせ・お申し込み ↓

**東京本部事務局**  
(月~金、10~18時)

TEL 03(5206)5260

yunnan@jyfa.org

連載

## こんにちはCSR

### 一協会を支えてくださる協力企業からのメッセージ

第25回●全日本鉄道労働組合総連合会（略称：JR総連）

#### 会社概要■

○全日本鉄道労働組合総連合会

設立：1987年2月2日

組織形態：職種別労働組合

所在地：〒141-0031

東京都品川区西五反田3丁目2-13

目黒さつきビル3階

HP <http://jr-souren.com>



柳明則書記長

での植林活動、障害を持った子供たちへの「旅のプレゼント」など幅広く活動しています。特に注目すべきなのは「旅のプレゼント」です。この企画は、障害を持っている子どもたちに3泊4日の旅行をプレゼントするだけでなく、組合員自身が障害児童に付き添って旅をするというものです。この活動を通じて組合員が障害者の不便さを実感し、障害児童を持つ親の気持ちを思いやるようになるといいます。参加した組合員一人ひとりが肌感覚でCSR活動の意義を感じることができる、組合員視点の活動です。また、組織外の人たちに対しても良い活動だと感じもらえる企画です。JR総連の活動でもう一つ素晴らしいのは資金の集め方です。「CSRの活動費は組合費からの捻出ですか？」との問い合わせに、書記長は「いえ、組合員からのカンパです。中国貧困地域への小学校の寄付の時は、1週間1人10円を3ヶ月間続けました。一人ひとりの参加意識が大切ですから」と答えてくれました。CSR活動は社員や組合員の参加者意識が重要です。カンパだけでなく、戦争の悲惨さを伝える「平和研修」や「森づくりの植林事業」そして「旅のプレゼント」に

多くの組合員が参加しているそうです。企業が利益の一部を社会に還元し、社員の参加や関心が少ないCSR活動も多い中、「俺たちがやっているんだ」という“組合員の参加意識”を感じられました。これが一般企業とは違うJR総連の素晴らしいところを感じさせられました。



JR総連の皆さんと  
前列左より 柳明則書記長、初鹿野惠蘭理事長、  
榎本一夫執行委員長、渕岡彰顧問



目黒駅から線路沿いに五反田駅方面へ歩いていていると小綺麗なJR総連のビルがあります。玄関脇には蒸気機関車の車輪をモチーフにしたオブジェがあり、三階に上ると柳書記長がにこやかに迎えてくれました。協会の法人会員として、JR総連には十数年来ご協力いただいており、雲南省少数民族のための小学校建設資金もご支援いただいています。労働組合がCSR活動を熱心に行っている例は少なく、JR総連がCSR活動を始めたきっかけについてうかがいました。柳書

記長は「国鉄分割民営化に際し、多くの税金が投入され国民に迷惑をかけました。国民への恩返しの意味を込め組合活動を通じて社会貢献したい、という気持ちがCSR活動への契機となりました。」と話してくれました。JR総連は、協会の支援している中国の少数民族地域やその他の貧困地域への小学校建設などの教育支援、北海道大沼周辺や銅山開発ではげ山になった足尾の山々

※CSR=Corporate Social Responsibility（企業の社会的責任）：利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

## 新規会員募集中 協会活動を応援してくださる会員を募集しています！

1か月500円からできる教育支援

雲南少数民族の子どもたちに豊かな未来を！

協会の趣旨に賛同し、支援していただける個人、企業、団体を随時募集しています。

|      |                      |
|------|----------------------|
| 正会員  | 一口 6,000円 (500円／月)   |
| 贊助会員 | 一口12,000円 (1,000円／月) |
| 法人会員 | 一口18,000円 (1,500円／月) |

※法人会員は3口以上でお願いします

※正会員と法人会員には総会における議決権があります。贊助会員に議決権はありませんが、贊助会費は寄付控除の対象となります。会の場合は初年度の会費は入会月会員には会員証を発行し、会報『彩雲の南』、メール通信をお送りいたします。※4月1日から3月31日までを1年度とします。

※年度途中でご入から年度末3まで月割で計算します。

### ご寄附のお願い

協会では随時、皆様からのご寄附を受け付けております。ご寄附は雲南少数民族の教育支援活動、協会運営のために大切に使わせていただきます。当協会へのご寄附は税制優遇（寄付控除）が受けられます。

①銀行振込三菱UFJ銀行 目黒駅前支店 普通 1300380

特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会(トケイハイイカド カウガノソニッポンウンナルンギ キョウカイ)

②郵便振替振替口座 00100-8-610935

加入者名 特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会

※お振込手数料はご負担いただきますようお願いします。



イベバ  
報告

## 第19回定時総会 開催報告

第19回定時総会が下記の通り行われました。

日 時：令和元年6月1日(土) 10時～12時

場 所：株式会社技術評論社5階会議室

議 長：遠藤功 副理事長

司会進行：中村有里子 理事

議決権を有する会員数 244名

出席会員数 129名(うち委任状出席87名、書面議決22名)

議案について審議し、原案通り承認されましたことをご報告申し上げます。

## 新監事ご紹介

第19回定時総会にて、6月1日付で佐伯義博理事の辞任と監事就任が承認されました。監事は3名になりました。

=新監事ご挨拶=

「2019年度定期総会において新監事に就任いたしました。甚だ微力ですが協会の活動理念に基づき、少しでもお役に立てるよう尽力する所存です。皆様には今後とも一層の

ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。」



佐伯義博 新監事

## 令和元年度 第2回理事会 及び役員・顧問会

令和元年度第2回理事会及び役員・顧問会が下記の通り行われました。

日 時：令和元年8月23日(金)

場 所：株式会社技術評論社5階会議室

【議案】会員数増加、「25の小さな夢基金」事業拡大、

設立20周年記念事業(継続審議)等

審議を行い、全て原案通り承認されました。

## ニエアル 聶耳没後84周年記念式典 藤沢市



聶耳記念碑の前にて

## 出前講座 東京大学中国茶同好会

初鹿野惠蘭理事長、林則幸理事、学生ボランティアの渡部優美さんが7月19日、東京大学中国茶同好会のメンバー約30人を相手に、雲南の少数民族と中国茶などの食文化、中国の経済事情について講演しました。学生たちは少数民族衣装を着たり、プーアル茶を飲んだりしたほか、初鹿野理事長の話に「ボランティアとして活動に参加してみたい」「雲南に行ってみたい」と話していました。

第69号に紹介された初級は簡単だったけれど、3級(ものしりコース)、2級(中国通コース)の受験にはどんな準備をすればいいの?」という方にお答えし、今回は出版社めぐん発行の公式テキスト『中国百科』と『中国百科検定問題集』を基に3級の過去問題を出題。チャレンジしてみてください。

Q1 1997年に中国4番目の直轄市(省級市)となった都市は?  
①天津 ②北京 ③重慶 ④上海Q2 チャイナドレスの起源になった衣装は何族のものか?  
①苗族 ②回族 ③満州族 ④漢族

プーアル茶を体験



### 第7回中国百科検定

実施日：2019年12月8日(日)

受験申込：9月1日～11月8日

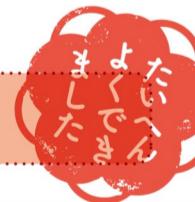
詳細は「中国百科検定」で検索

または日本中国友好協会(〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-2-3

鈴和ビル5F TEL(03) 5839-2140 FAX(03) 5839-2141

e-mail: nicchu@jcfa-net.gr.jp)まで

解答 Q1③、Q2③



## 会報編集長が中国語入門書を出版

会報編集長で共同通信社国際局編集委員

の木本一彰さんが、中国語の上達本『中国語

筋トレ～みっちり基礎編』(東方書店)を刊行しました。2001年から03年まで香港支局長を務め、通訳案内士の資格も持つ木本さんが「発音を目で見る」をコンセプトに独自のノウハウを紹介しています。

初心者がつまずきやすい発音は、唇や舌の形をイラストで示したうえ発声の上げ下げを三線譜に載せています。「基礎発声編」と「基礎会話編」の2部構成で、会話編はレストランやショッピングでよく使う表現、病院での伝え方などをまとめています。中国人による音声データもホームページからダウンロードできます。A5判、216ページ。税別2,000円。



木本編集長

## 連載 25の少数民族の生活

### 摩梭人 (モソ人)

神秘的な母系社会

雲南最北部に住む摩梭人

雲南省最北部、四川との境に位置する瀘沽(ロコ)湖のほとりに1,500年以上前から住んでいる人口約5万人の摩梭人。いまだに通い婚が行われ、「父」「夫」という言葉も概念もない母系社会を営み、男性は働くが、女性が働き、成人は男女ともに13歳。ラマ教を信仰しています。



## 編集後記

リニューアルされた広島の平和記念資料館に行きました。展示物の陳列方法は変わっていましたが、戦争について改めて考えさせられました。原爆にしろ、従軍慰安婦や徴用工の問題にしろ、どんなに時が経とうと被害者の側は決して忘ることはないと思います。中国と韓国、北朝鮮が隣国であることからは逃れられません。戦後の問題をすっきりさせ、東京五輪、パラリンピックを機に眞の友好国になればなあと思いました。

(編集長・木本一彰)